

研究ノート | Research Notes

多読のためのオンライン語彙レベルテスト：適切なレベル選択の一助として

Online vocabulary level test for Japanese extensive reading :
as an aid to choosing the appropriate level

中野 てい子
NAKANO Teiko

尚美学園大学
音楽表現学科 講師
Shobi University

2021年1月

Jan.2021

多読のためのオンライン語彙レベルテスト：適切なレベル選択の一助として

Online vocabulary level test for Japanese extensive reading: as an aid to choosing the appropriate level

中野 てい子
NNAKANO Teiko

[抄録]

本研究は、学習者が多読を行う際に適切な読み物のレベルを判定するオンライン版「多読のための語彙レベルテスト」の有用性を検証しようとするものである。このテストの目的は、独学で多読をする学習者が適切なレベルの読み物を選択することの支援である。オンライン授業の課題の一部として、テストの受験と多読を行った学習者の読書記録とアンケートをもとに、次の2点から分析した。まず、判定されたレベルと学習者がはじめに選んだレベルの一致度、そして、学習者が多読を続ける際に選んだレベルとはじめの読み物の難易度との関係である。アンケートでは70%の学習者が、テストがあった方が良いと回答した。読書記録の分析から得られたデータをもとに考察した結果、学習者が読み物を選ぶ際、テストの結果を参考にしていることが示唆された。

キーワード

多読, 「読み」の良い循環, 既知語率, オンライン語彙レベルテスト, 自律学習, eラーニング

[Abstract]

This study examines the usefulness of an online vocabulary level test for extensive reading which indicates an appropriate level of graded readers for learners to start reading from. The purpose of this test is to support learners to choose their first book. Based on the book review sheets and answers to a questionnaire by students who took the test and read graded readers as part of a remote course, this study analyzed the following two points: the correspondence of the test result to the level at which learners read, and the relationship between the difficulty of the first book they read and the level they chose next. 70% of the learners said that the test was helpful. The results of the book review sheets suggest that learners refer to the test results when choosing books.

Keywords

extensive reading, virtuous circle of reading, rate of known words in text, online vocabulary level test, autonomous learning, e-learning

1.はじめに

多読は、読み物の内容を楽しみながら語学力を高めることができる第二言語学習法である¹⁾²⁾。特に、未知語との遭遇回数が多くなるように書かれている多読教材を用いた多読は、付随的語彙学習に効果がある³⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾。さらなる利点として、教師主導型の授業で行われる精読とは対照的に、時間と場所を選ばず、自由に読み物を選んで始められることが挙げられる。特に、日本語の教材を入手することが難しい海外の日本語学習者にとって、メリットが大きい。しかし、教師が介在しない教室外で学習者が個人の裁量で読む場合、適切なレベルの選択ができないと、未知語が多いために内容理解が促進されず、読了できないこともある。

1.1. 多読に適した「読み」の循環

第二言語学習者の読書行動に良い循環 (virtuous circle) が生まれると良い読者 (good reader) に成長すると言われている⁷⁾。良い循環とは、読み物の内容がわかると読むのが面白くなるので、読むスピードが速くなる。その結果、読む量が増えるので、学習言語により多く触れられ、内容がさらにわかるようになるという循環である。この逆の状況を「読み」の悪循環 (vicious circle) と言う⁷⁾。すなわち読む速度が遅くなり、読むことに楽しさが感じられず、あまり読まなくなるという循環である。Nuttall⁷⁾ は、speed, enjoyment, comprehension のどれもが、「読み」の悪循環から抜け出して良い循環に入るための鍵になると言っている。

1.2. 自律的に読む場合の読書行動

Nakano & Harada⁸⁾ は、デジタル教材配信・閲覧システムを用いて教室外の学習者の多読における読書行動を調査した。その結果、学習者にとって適切なレベルのものを読むことが、Nuttall⁷⁾ が提唱する「読み」の良い循環に移行するための条件の一つとなり得ることが示唆された。学習者が自身にとって適切なレベルのものを読むというとき、その読み物の語彙レベルが、学習者のもつ語彙レベルに合っていることが必要である。つまり、良い循環で読むためには、相応の語彙知識が学習者に求められることになる。見方を変えれば、学習者の語彙知識の範囲を大きく超えないレベルの語彙で書かれた読み物は、多読を行う学習者にとって適切なレベルと言えるのではないだろうか。教室等で教師の指導を受けながら多読を始める場合には、各学習者にとって適切なレベルを教師が助言することが可能である。一方、教室外で、独学等で学び、教師の指導を受けられない学習者が多読を始める場合、Nuttall⁷⁾ が言う悪循環ではなく、良い循環で読み進めるためにも、各自にとって適切なレベルの読み物を知る必要があると言える。

1.3. 研究課題

筆者は、独学の学習者に多読のための読み物「JGR さくら」を使って自律的に日本語を学ぶ機会を提供するため、多読支援システム「さくら多読ラボ」を公開している⁹⁾¹⁰⁾。さらに、これを使って多読を始める学習者が、楽しみながら読み進められるレベルを知る手段として、「多読のための語彙レベルテスト」(以下、VLT とする)を開発した¹¹⁾。このテストの判定がふさわしい読み物のレベル選択を支援することも、実践を通して明らかに

した¹²⁾。しかし、教室外の学習者が自律的に読む場合、この判定が実際にどのように利用されるだろうか。そこで、教室外の学習者が VLT を受け、「JGR さくら」を利用した場合、VLT の判定結果と、学習者が選んで読んだレベルが一致するか、また、学習者が読み続ける場合、前に読んだ読み物の難易度が次に選ぶ読み物のレベルにどのように影響したかを考察する。

2. 調査方法

2020 年度春学期は、授業のオンライン化と同時に、12 週分の授業とは別に 3 週分の課題授業を準備することになった。1 年次留学生の必修科目である「日本語 I ①芸情」と「日本語 I ②芸情」では、「ポータルシステムによるオンデマンド型遠隔授業」として、12 週分の授業を授業日に、3 週分の多読課題を補講日に配信した。そして、多読課題の最終回にアンケートを行った。この 3 週分の多読課題とアンケートへの回答を分析の対象とする。次節以降で詳細を述べる。

2.1. 調査の対象

「日本語 I ①芸情」・「日本語 I ②芸情」の履修者は、再履修（2 年生）・編入生（3 年生）を含む、45 名である。このうち、3 週分の全ての多読課題を提出した 33 名のデータを分析対象とした。

2.2. 多読課題

第 10 回、第 12 回、第 14 回に相当する補講日（7/11, 7/18, 7/25）に次のことを行った。

- ① 第 10 回に、読み物を読む前に VLT を受け、結果をスクリーンショットにしてポータルサイトに提出する。
- ② 第 10 回・第 12 回・第 14 回の授業が行われる 3 週間に、1 週間に 1 冊として合計 3 冊の読み物を「さくら多読ラボ」のライブラリで読む。この際、判定結果として示された「おすすめのレベル」から選んで読むことを推奨した。
- ③ 読み終わったら、ポータルサイトで「読書記録」（読み物のタイトル・かかった時間・難しさの 5 段階評価・面白さの 5 段階評価・知らなかった言葉・辞書で調べた言葉）を入力する。
- ④ 第 14 回に、アンケートに回答する。

2.3. 多読教材

多読課題で学習者が読んだ「さくら多読ラボ」のライブラリーの読み物を表 1 に示す。「JGR さくら」は、物語のコーパスから頻度に基づいて抽出した約 4500 語から成る「JGR 語彙リスト」を元に作成された読み物である¹³⁾。英語の Graded readers の理論¹⁴⁾に基づき、付随的語彙学習が可能になるよう、各レベルにおいて使用語彙の 95% が既知語になるよう語彙調整が行われている。レベルは、A が初級前期の前半、B が初級前期の後半、C が初級後期の前半、D が初級後期の後半、E が中級前期の前半、F が中級前期の後半、G が中級後期の前半、H が中級後期の後半である。

表1 ライブラリーの読み物

レベル	タイトル	原作／著者	字数	読んだ人数
A	蜘蛛の糸	芥川龍之介	2474	6
	大きいかばんと小さいかばん	夢野久作「二つの鞆」	2084	2
B	大男の話	原田照子	3054	2
C	大きな帽子の女	「今昔物語集」より	17591	1
D	蛙	芥川龍之介	1760	3
	仙人	芥川龍之介	2847	4
	不思議な老人と西瓜	「今昔物語周」より	1807	2
	大晦日の小さな事件	井原西鶴	4098	1
E	夢十夜 第一夜	夏目漱石	1682	4
	夢十夜 第三夜	夏目漱石	1500	4
	守られた約束	小泉八雲	2883	6
	大つごもり	樋口一葉	13004	1
	林の奥で	芥川龍之介	16399	1
	坊っちゃん	夏目漱石	31497	1
F	狐物語	林芙美子	3576	15
	若返り薬	夢野久作	3015	19
	銀田の事件簿 1	原田照子	42019	1
G	ヴィヨンの妻	太宰治	12500	13
H	銀田の事件簿 2	原田照子	34000	13

2.4. 多読のための語彙レベルテスト

VLTは、Nation¹⁴⁾の語彙レベルテストにならない、媒介語を使用せず、正解となる3語の意味を日本語で説明し、その説明にあてはまる語を6語の選択肢から選ぶ形式である。テスト問題は、2.3.で述べた「JGR語彙リスト」から、品詞と語種の比率に応じた層化抽出法によって無作為に抽出した語で構成されている。AとBの2バージョン作成し、ルビーン検定によってバージョン間の等価性を確認した。オンライン版では、Aバージョンを採用している。正解となる語123語、錯乱肢としての123語からなり、問題の総数は41問である。オンライン版のVLTでは、各レベルにおける既知語の割合を、該当するレベルまでの延べ語彙総数で計算し、その結果を表示する。同時に、2.3.で述べた読み物の語彙調整と同様、楽に読むために必要な既知語の割合、すなわち、判定基準を95%とし、該当するレベルまでの全てのレベルの既知語の割合が95%以上のレベルを「おすすめのレベル」として提示する。

2.5. 読書記録

ポータルサイトで記入する内容のうち、分析対象とした項目は以下の3項目である。

- ① 読んだ読み物のタイトル
- ② 難しさの5段階評価 (1 難しい・2 少し難しい・3 普通・4 少し易しい・5 易しい)
- ③ 面白さの5段階評価 (1 面白い・2 少し面白い・3 普通・4 少しつまらない・5 つまらない)

2.6. アンケート

アンケートの質問と回答形式を以下に示す。

- ① 質問:「多読のための語彙レベルテスト」の「おすすめのレベル」は合っていましたか?
選択肢: 1 自分のレベルに合っていた・2 わからない・3 合っていない
回答の理由: 記述式
- ② 質問:「さくら多読ラボ」のライブラリーで読む前に、「多読のための語彙レベルテスト」を受けた方がいいと思いますか?
選択肢: 1 テストがあった方がいい・2 わからない・3 テストは必要ない
回答の理由: 記述式

3. 結果と考察

3章1節では、学習者がVLTで判定されたレベルごとに、読書記録の回答について考察する。3章2節では、アンケートへの回答からVLTの有用性を考察する。

3.1. 読んだレベルと内容の難しさ

表2にVLTで判定された学習者の人数を示す。これまでの調査¹²⁾においても漢字圏の学習者は非漢字圏の学習者より語彙レベルが高い傾向にあったが、漢字圏の学生の多くが「JGR さくら」で最も高いレベルであるHに判定された。

表2 VLTで判定された学習者の人数

	A	D	F	G	H
漢字圏	1	0	3	3	15
非漢字圏	0	1	1	4	5

表3に、VLTの判定レベル別に、読んだレベルと「難しさ」・「面白さ」の回答を示す。選択パターン「上」・「下」は、それぞれ、「判定より上のレベル」・「判定より下のレベル」を、「同」は「判定と同じレベル」を示す。読書記録の回答は、2.5.の②③で示した数値で示す。ただし、2人以上が同じパターンを選択した場合の読書記録の回答は平均値で示している。

まず、G・Hレベルに関しては、該当レベルの読み物が1冊ずつしかライブラリーにないため、G・Hレベルに判定されたID-7～ID-11とID-19～ID-23は2冊目以降、必然的に判定より下のレベルを選んでいることになる。一方、ID-12～ID-18は判定レベルを読まず、それより下のレベルを読んでいる。これは、G・Hレベルの読み物が長編であることが理由であると考えられる。G・Hレベルを選んだ学生の「難しさ」の回答には、「1難しい」という回答が見られた。日本語教育における読解は精読を中心に授業が行われているため、日本語が上級レベルであってもトップダウン式の速読に慣れていないということもあるだろう。自主的に長編を選んだ学生や、2冊読む学生(ID-16)もいたが、全体的には、同じレベルの読み物であれば短い方を選ぶ傾向が見られた。

次に、判定されたレベルに該当レベルの読み物が3冊以上あり、3週すべて判定レベルの読み物を選ぶことが可能なID-1～ID-6の読み物の選択と「難しさ」の回答を考察する。まず、ID-1はAレベルに判定されたが、1週目にDレベルを、2週目にEレベルを、

3週目にDレベルを読んだ。ID-1は、CレベルとDレベルの既知語率がいずれも100%だったが、Bレベルの既知語率が90.7%であったため、Aレベルという判定になっていた。VLTの結果には、判定だけでなく、各レベルの既知語率も表示されるため、このような逆転現象が起きた場合に、受験者の判断で判定より上のレベルを読むことができる。

表3 読んだレベルと「難しさ」・「面白さ」

ID	判定	人数	読んだレベル			選択パターン			難しさ			面白さ		
			1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
1	A	1	D	E	D	上	上	上	3	3	3	3	3	3
2	D	1	D	E	E	同	上	上	4	2	2	1	1	1
3	F	1	A	D	F	下	下	同	4	1	2	3	2	2
4		1	C	B	F	下	下	同	2	2	1	1	2	1
5		1	F	F	E	同	同	下	2	2	3	2	1	3
6		1	F	F	G	同	同	上	3	3	3	2	3	3
7	G	1	D	G	E	下	同	下	3	2	3	1	1	2
8		1	F	G	F	下	同	下	5	5	5	3	3	1
9		1	G	E	E	同	下	下	2	4	4	3	2	2
10		1	G	F	E	同	下	下	1	3	4	3	2	1
11		3	G	F	F	同	下	下	3.0	4.0	2.7	2.3	2.0	2.0
12	H	1	A	B	A	下	下	下	3	3	3	3	3	3
13		1	A	E	D	下	下	下	4	3	3	3	3	3
14		1	D	E	D	下	下	下	4	4	4	3	2	2
15		1	E	E	D	下	下	下	4	3	5	2	3	1
16		1	E	FD	FE	下	下	下	1	2	2	3	3	2
17		1	F	A	F	下	下	下	3	3	4	2	2	2
18		1	F	F	E	下	下	下	3	2	5	1	2	3
19		1	H	A	A	同	下	下	2	4	5	3	1	3
20		1	H	A	F	同	下	下	1	4	4	3	3	4
21		3	H	F	E	同	下	下	1.7	3.3	4.0	2.3	2.0	2.0
22		3	H	F	F	同	下	下	4.3	4.3	5.0	3.3	3.0	2.0
23	5	H	G	F	同	下	下	2.4	2.4	3.6	2.0	2.0	2.2	

ID-2は、Dレベルに判定され、1週目にDレベルを、2週目にEレベルを、3週目にEレベルを読んだ。ID-2は、Eレベルの既知語率が92.9%であったため、Dレベルに判定された。1週目にDレベルを読んだ時、読書記録の「難しさ」で「4少し易しい」と回答している。そのため、2週目に判定より上のEレベルを読んだと考えられる。2週目は、「2少し難しい」と回答しているが、「面白さ」では「1面白い」と回答している。そして、3週目もEレベルを読んでいる。3週目の「難しさ」と「面白さ」も2週目と同じであった。

ID-3とID-4は、判定より下のレベルから読み始め、3週目に判定レベルを読んでいる。徐々にレベルを上げて読み進めているので、良い読み方と言えるだろう。

ID-5は、1週目と2週目に判定レベルを読み、いずれも読書記録の「難しさ」で「2少し難しい」と回答している。そのため、3週目に下のレベルを読んだと考えられる。

ID-6はFレベルに判定され、1週目と2週目にFレベルを、3週目にGレベルを読んだ。ID-6は、Gレベルの既知語率が94.3%であったため、Fレベルという判定になっていた。「難

しさ」では3回とも「3 普通」と回答している。判定レベルを2週続けて読み、3週目に上のレベルに挑戦したものと考えられる。

以上の結果から、該当するレベルの読み物の数が十分にあれば、判定レベルを参考にしながら、読み物の難易度に基づいて、次の読み物のレベルが選ばれていることが示唆される。また、ID-1とID-6の例から、VLTの結果の表示方法として、レベルごとの既知語率の表示が有効であると言えるだろう。

3.2. アンケートの回答

表4に、判定レベル別にアンケートの回答の人数を示す。

表4 アンケートの回答

判定 レベル	おすすめレベル			VLTを受けた方がいいか		
	合っていた	わからない	合っていない	あった方がいい	わからない	必要ない
A	0	1	0	0	1	0
D	1	0	0	1	0	0
F	3	1	0	2	2	0
G	5	1	1	6	1	0
H	12	6	2	14	5	1

1つ目の質問「VLTの『おすすめのレベル』は合っていましたか？」に対しては、64%が「合っていた」と回答した。理由として、以下のものが挙げられた。

- ・ほとんどの言葉がわかった／知らない言葉は少ない（4名）
- ・知らない言葉（の割合）／難しさはちょうどよかった（2名）
- ・わからない言葉があったが、難易度がちょうどよくて、楽しく読めるから
- ・本の内容が難しすぎず、簡単すぎず、適度な難易度だったため
- ・（自分の語彙レベルと）同じレベルの文章を読むと、読解障害が小さい
- ・知らない単語もあるが、全体に読みやすいと思う
- ・ちょっと難しいが、いいチャレンジになる
- ・あまり辞書を使用する必要がない、理解できる
- ・読むことに不便なことがなかった
- ・読みやすいから
- ・難しい字が少ない
- ・H（レベル）を読むときに勉強になった（テストの判定はHレベル）

一方、3名が「合っていない」と回答した。「読み物が長かった」という理由と、反対に「もっと難しい読み物があるとよかった」という理由が挙げられた。また、「低いレベルの単語は分かっていないけれど高いレベルにあった単語は分かっていて」という理由も挙げられた。この点に関しては、VLTは日本語能力を判定するものではなく、物語を読むために必要な語彙知識の判定テストであるという説明を加える必要がある。

次に、「『さくら多読ラボ』のライブラリーで読む前に、VLTを受けた方がいいと思いますか？」という質問に対しては、「VLTがあった方がいい」という回答が70%であった。理由として、以下が挙げられた。

- ・ 自分の日本語／語彙のレベルがわかる（8名）
- ・ 自分のレベルに合わせて本を選ぶことができる（7名）
- ・ テスト（を受けること）で単語を勉強できる（2名）
- ・ 自分の実力を確認できる
- ・ （テストの）結果が正しい
- ・ 面白いテストだ

1名が「必要ない」と回答した。理由は、「テストの（判定）レベルが高くても、本を読むのはそれ（テストの判定）と違って難しいから」というものであった。この学習者はHに判定されたが、3回とも下のレベルを読んでいた。

4. 結び

今回の調査では、1年次必修科目を履修する留学生を対象とし、オンライン版VLTが学習者の読み物の選択に有用であることを確認した。授業がオンライン化されたことにより、期せずしてオンライン版VLTを実際に使う機会が得られ、自律学習支援システムの評価と開発が促進された。今後はライブラリーを充実させ、日本語学習者の自律学習を支援するシステムを完成させたい。

謝辞

本研究はJSPS科研費18K00694の助成を受けたものです。

引用文献

- 1) Nation, I.S.P., Teaching ESL/EFL reading and writing, Routledge, New York: Routledge, 2009.
- 2) Krashen, Stephen. D., “Does free voluntary reading lead to academic language?”, Journal of Intensive English Studies 11, 1997, pp. 1-18.
- 3) 三上京子・原田照子「多読による付随的語彙学習の可能性を探る— 日本語版グレイディッド・リーダーを用いた多読の実践と語彙テストの結果から」『国際交流基金日本語教育紀要』7、2011年、7-23頁。
- 4) Waring, Rob., “Why extensive reading should be an indispensable part of all language program”. The Language Teacher 30 (7), 2006, pp.44-47.
- 5) Pigada, Maria. & Schmitt, Norbert, “Vocabulary acquisition from extensive reading: A case study”. Reading in a Foreign Language 18(1), 2006, pp. 1-28. <<https://nflrc.hawaii.edu/rfl/April2006/pigada/pigada.pdf>> [retrieved: June, 2020]
- 6) Nation, I.S.P., Learning Vocabulary in Another Language, UK: Cambridge University Press, 2001.
- 7) Nuttall, Christine, Teaching Reading Skills in a Foreign Language, Oxford, UK: Macmillan Education, 2005.
- 8) Nakano, Teiko and Harada, Teruko, “Reading behaviors of Japanese learners based on logs recorded by users of digital books”, The Proceedings of the Eleventh International Conference on Mobile, Hybrid, and On-line Learning eLmL2019, 2019, pp. 4-10.

- 9) 中野てい子・原田照子・山形美保子・酒井眞智子・宮崎妙子・草野宗子・今井美登里・三上京子「日本語グレイディド・リーダー『JGR さくら』を使った多読支援システムー 自律学習のために」『CASTEL-J 第7回国際大会予稿集』、2017年、102-103頁。
- 10) Nakano, Teiko, "Development of a support system for Japanese extensive reading: An evaluation of the system by learners. International Journal on Advances in Intelligent Systems, 10(3&4), 2017, pp. 423-433.
- 11) 中野てい子・原田照子・三上京子・山形美保子「多読を始める学習者のための語彙レベル判定テストー 試行版の構築」『CASTEL-J 第8回国際大会予稿集』、2019年、203-206頁。
- 12) 中野てい子・原田照子・三上京子「学習者が楽しく多読ができる読み物のレベルとは：多読のための語彙レベルテストの判定結果と読書記録の分析から」『早稲田日本語教育学』第29号、2020年、105-113頁。
- 13) レイノルズブレット・原田照子・山形美保子・宮崎妙子「日本語版グレイディド・リーダー開発に関する基礎的研究」『小出記念日本語教育研究会論文集』11、2003年、23-38頁。
- 14) Nation, I.S.P., Teaching and Learning Vocabulary, MA: Hainle & Hainle, 1990.